

社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部

JCCA TOHOKU

明日への風、
東北から



vol. **43**
支部だより 2011.4

目 次

Vol.43

• 巻頭言 「品質確保法の定着が建設業界を救う」	
…………… 社団法人建設コンサルタンツ協会東北支部 副支部長 糠澤 宏二	1
• 海外紀行 「アフガニスタンの現状」 …… 八千代エンジニアリング株式会社 三宅 清孝	2
• 技術シリーズ	
「水理・水文モデルの開発基盤となる共通プラットフォーム（CommonMP）について」	
…………… 技術委員会 河川部会長 田子 洋一	6
• 私の趣味 「国内旅行を楽しむ」 …… 大日本コンサルタント株式会社 田沢 重久	9
• 名勝地・行事 「めでた、めでたの縁結び」	
…………… 三協コンサルタント株式会社 代表取締役 大高 廣志	12
• 講演会等報告「平成22年度 講演会報告」 ……	14
• 現場見学会 平成22年度 現場見学会報告 ……	15
構造部会「現場見学会」に参加して	
…………… アジア航測株式会社 市野 友教	16
…………… 八千代エンジニアリング株式会社 内海 卓也	17
河川部会「現場見学会」に参加して	
…………… 株式会社 建設技術研究所 野村 彩乃	18
…………… 八千代エンジニアリング株式会社 内海 卓也	19
• 支部活動報告	
平成22年度東北各県、仙台市及び東北地方整備局との意見交換会 ……	20
• 平成22年度 RCCM資格試験 ……	23
• 平成22年度 RCCM登録更新講習会 ……	24
• 委員会紹介「総務委員会の紹介」 …… 総務委員長 渋沢 雄二	25
• 特 集	
品質セミナーの報告 ……	26
平成22年度 橋梁技術講演会及び高校生「橋梁模型」作品発表会 ……	27
• 支部だより ……	28
• 会員の動向 ……	33
• 東北支部 会員名簿 ……	34
• 編集後記 …… 広報委員 荒木 孝広	36



品質確保法の定着が建設業界を救う

社団法人建設コンサツタツ協会東北支部 副支部長

糠澤 宏 二

「コンクリートから人へ」の掛け声で、必要か不必要かの議論が無いまま、平成22年度公共事業費は前年比18.3%減と大幅に削減されてしまいました。今、日本では公共事業・不要論が大勢を占めており、道路やダムなどの必要論を言えば、袋叩きに遭いそうです。

今年の1月のオバマ米大統領の一般教書演説では「米国のインフラの等級は「D」ランクだ。過去2年間、衰退した建設業界に何千もの事業を生む再建作業を始めた。このような政策を倍増することを提案する。」と述べました。つまり、かつてのルーズベルト大統領の「ニューディール政策」と同じ「公共事業による雇用創出」の主張でした。しかしこのことについては、日本のマスメディアではほとんど報道されませんでした。諸外国の情勢を正確に伝えるのがマスコミの使命の筈ですが、残念ながらマスコミにとって都合の悪いこと・知らせたくないことについてはバイアスがかかってしまっているようです。正確な情報が伝わらないということは、我々国民にとって、とても由々しき事態であると思います。他の諸外国でも、アメリカと同じような考えで、インフラ整備に力を入れています。そして、着々と社会資本が整備され、「経済力」ひいては「国力」が増進されています。社会資本整備を軽視する日本は、外国からは恐らく、とても「不思議な国」だと思われていることでしょう。

このような中、昨年の秋に、公共事業批判に対して的確な反論をしている「公共事業が日本を救う」（藤井 聡著）が出版されました。ムード先行の「公共事業・不要論」に対して、正確なデータを基に論理的に反論しております。理不尽な批判に対して、もやもやとした気分になっていましたので、とても痛快な気持ちで読むことができました。今年7月に「今こそ必要な社会資本整備」と題して建コン主催で京都大学藤井先生と東北工業大学神山先生の講演会を開催する予定ですので、皆様も是非参加してください。

今、建設業界は、急激な公共事業の削減により、瀕死の状態に近づいていると言えます。少ないパイを争い、競争が激化し、低価格入札が多くなっています。このままこの状態が続けば、多くの技術力のある優良

な会社が潰れ、そして、優秀な人材が少なくなり、その結果、良質なインフラを整備し、維持することが難しくなってしまうものと予測されます。日本の国土の安全と国民の豊かさを支えている建設業界が衰退すれば、日本の将来の安全と豊かさが危うくなります。

このような状況だからこそなお一層、価格だけによる競争を少なくする必要があります。品質確保法の制定以来、各発注機関のご努力により徐々に技術競争が増えています。しかし、総合評価落札方式の平均落札率が70%台ということですので、結果的には依然として、価格による競争が主体となっていると言えます。まだまだ品質確保法の精神が制度として浸透していないものと考えられます。

外国におけるコンサルタント業務では、価格よりも技術が優先されて、企業が選定されています。ドイツやフランスでは、プロポーザル方式が基本となっています。アメリカでは、エンジニアと設計契約を行なう際には、価格による競争が禁止されており、エンジニアの能力と資質に基づき選定した上で、適正な価格で契約することになっています。

日本においても、このような入札契約方式を基本とすれば、技術力のある優良な会社が、適正な価格で仕事をすることができます。このことにより、会社は疲弊せずに、適正な利潤が得られ、技術開発や人材育成に力を注ぐことができます。そうすれば、優秀な人材が集まり技術力も格段に向上するものと考えられます。そして、発注者の良きパートナーとなり、建設的な提案のできる有能なエキスパートとして機能することが可能になります。

良質なインフラ整備や維持のためには、一日も早い、品質確保法の定着が望まれるところです。

社会資本整備はいつの時代にあっても国民にとって大事なものです。如何なる批判があろうとも、発注者の皆様とともに、確固たる信念と自信を持って仕事に取り組んで参りたいと思います。

発注者の皆様方には、今後とも温かいご支援とご指導をよろしくお願いいたします。

アフガニスタンの現状

八千代エンジニアリング(株) 三宅清孝

一昨年まで9年間在籍した東北支店を離れ、現在は国際協力機構（JICA）の専門家として、東京とアフガニスタンの首都カブールを約1カ月おきに往復する生活をしている。

アフガニスタンは現在、外務省の危険情報として最も危険度の高い「退避勧告」が全土に出されている。よって、一般の日本人は渡航することが出来ない。そんな中でこの地に滞在できる数少ない日本人として、筆者が見たアフガニスタンの現状をお届けしたい。

1. アフガニスタン支援

2009年11月、日本政府は5年間で最大50億ドルという巨額の援助資金をアフガニスタンの平和構築に投入することを表明した。その支援の中身としては、①治安改善のための警察機能強化、②元タリバン兵等への職業訓練、③農業・インフラ・教育・医療等の支援という3つが挙げられている。この巨額支援により、現在日本は、米国に次ぐ第2位のアフガニスタン支援国となっている。この支援を世界にアピールするべく、日本は「顔」の見える支援を行おうとしている。そのためには、JICAやNGOを通して現地に日本人が入って活動を行う必要があるが、現在の治安状況では、多くの制約の中で活動せざるを得ない状況にある。

2. カブールでの生活

カブール国際空港に到着してまず目に入ってくるのは、国際ターミナルの壁やボーディングブリッジに日本の国旗が張られていること。このターミナルは日本政府の無償資金協力により2008年に完成したものである。アフガニスタンの玄関口で早くも日本の活躍が感じられる。

現地では、カブールの中心部にある高級ホテルに滞在している。ここはカブールにあるホテルの中でも最も厳しいセキュリティー体制をとっているが、外国人や要人が多く宿泊しており、目立つために最もテロのターゲットにされやすいところでもある。ホテル入口のゲートでは、厳しい車両検査があるほか、ホテル内に入るにはX線による手荷物検査や身体検査を受け

なければならない。ホテル内はいたって快適で、雑然として埃っぽい街の中心地にいるとは思えないくらい、緑もあり広々とした空間である。

現在JICA関係者約80人全員がこのホテルに滞在している。仕事以外の外出は一切禁止されており、毎日ホテルと事務所、関係省庁を防弾車で移動する。カブール市内のグリーンゾーン（安全区域）から外へ出る場合は、武装警護チームを同行させる必要がある。緊急時の連絡手段として、1人1台の無線機と携帯電話を常に携帯し、緊急時には無線による状況提供および行動規制がなされるほか、毎晩7時には全員が無線で安否確認を行っている。



写真1 ホテルの門



写真2 事務所と防弾車

写真4は、調査のためにカブール郊外へ行き、武装警護のもと、測量の基準点を確認しようと防弾車から降りたところだ。車から降りたとたん辺りから湧き出るように住民が寄ってくる。我々の調査チームの輪の中に入り込み、通訳が測量担当者に向けて現地語で話すのを当事者の如く耳を傾けて聞いている。話題の少ない地方の村人にとっては、何ものが興味津津なのであろう。



写真3 現場調査時の武装警護



写真4 群がる村人

3. 首都カブール

アフガニスタンの首都カブールは、標高1800mの盆地にあるこの国最大の都市である。降水量が極めて少なく、特に5月から11月にかけてはほとんど雨が降らない。年間300日以上は、雲一つない青空が広がっているのだが、砂埃や排気ガスなどで、空気は常に濁っている。だが、雨が降った翌日だけは、大気中の埃が雨で流され、街の光景が違って見えるほど大気が澄んでいる。

カブールは北緯35度と東京とほぼ同じ緯度であるが、内陸の高地であるため、昼夜および季節による寒暖の

差が激しい。夏は日中40度近くなることもあるが、湿度が低いため過ごしやすい。冬は雪が多い年には1m程度積もる。日中以外はホテルに缶詰状態の筆者にとっては、一年を通して日本にいるのと同じ服装で出張できるため楽である。

一方、乾燥具合は想像以上で、体中がカサカサして痒い上、ストレッチ運動などをすると皮膚がパキパキと裂けるような感覚になる。鼻の粘膜は乾燥し、鼻をかむと鼻血が出る。部屋では色々な乾燥対策を試した結果、今ではバスタブにお湯を張った上で、部屋の絨毯には3Lほどの水を撒いて寝るようにしている。ただし、この乾燥具合は洗濯するには都合がよい。夜洗濯をし、クローゼットの中に干しても朝にはカラカラに乾くため気持ちが良い。

カブールで印象的な風景として、「TVヒル」と呼ばれる高さ300メートルほどの丘があり、その頂上に多くのテレビ塔が立ち並んでいる。斜面には小さな土造りの家が這う様に広がっている。外から流入してきた貧しい人たちが違法に建てた貧民街である。ここにはある程度の電気は通っているようだが、水道は無い。住民はポリタンクで運ばれてくる水を買うか、もしくは下界まで歩いて水を汲みに行く。雪が積もった日には全く身動きがとれない様だ。中には、ロッククライミングでなければ登れないような断崖絶壁に張り付く家も見られ、どのように生活しているのか興味がある。



写真5 街の風景（奥がTVヒル）

カブールの人口は、1999年には約200万人だったが、現在では400万人を越えており、2025年には650万人とも900万人とも予測されている。人口の急増に伴い、地下水の低下、大気汚染、違法住民の増加、交通渋滞、衛生環境の悪化等の様々な都市問題が懸念されている。特に水供給については、現在市民が主に頼っている地下水は500万人分しか賄えないと言われている。

そこで現在、日本の支援の目玉となっているのが、カブール北部の500km²の広大な空き地を新都市として開発するカブール首都圏開発計画である。この新都市開発で最も重要な水供給として、北部の扇状地の地下水をパイプラインで送水し、さらに将来的には北部の山間部に複数のダムを建設するという。2025年にはこの新都市に150万人が住むという、とにかく壮大な夢物語である。

4. アフガン人

おそらくこれほどまで長い間戦争状態にある国は他にないだろう。ゆえにマスコミの報道するアフガニスタンの映像は常に戦場地である。そして我々が持つアフガン人のイメージは、タリバン兵に代表されるような野蛮な髭面の銃を持った男達である。しかし、アフガン人の多くは、このような戦場下にあっても笑顔を絶やさず、誰よりも平和を願っている。

アフガン人はお持て成し好きである。打合せに行くと、必ずお茶と飴を出してくれ、昼の時間になると食事を準備してくれる。仕事に対しても積極的で、会議を行うと驚くばかりに活発な意見が出され、收拾がつかないほどだ。



写真6 昼食（筆者は右端）



写真7 会議の様子

アフガニスタンには、特筆すべき民族がいる。筆者が初めてカブールを訪れた際に、街中で日本人と思しき人々が行き交うのを目にして驚いた。彼らは、ハザラ人というモンゴロイド系の民族であった。アフガン人全体の1割程度の少数民族であり、元来遺跡で有名なバーミヤン地方に居住していた。顔つきが違うこと、イスラム教少数派のシーア派の信者であることから、長く差別を受けてきた。特にスンニ派の原理主義を信奉するパシュトゥン人がほとんどを占めるタリバンの政権下においては、酷い迫害を受けた。そんな中で多くのハザラ人は隣国のイランやパキスタンへ難民として逃れている。2001年、タリバンはバーミヤンの石仏を破壊し、ハザラ人の住む村々を焼き払い、虐殺を行った。そんな矢先に発生したのが、米国の9・11同時多発テロである。遠い国で起きたこの悲劇が、タリバン政権の崩壊をもたらし、はからずもハザラ人の窮地を救うきっかけとなったのだ。タリバン政権の崩壊した現在、難民として隣国に逃れていたハザラ人がアフガニスタンへ帰還し、活躍している人が多くいる。

筆者のプロジェクトチームの中にもハザラ人が多くいるが、ほとんどがイランから帰還した若者である。難民となったハザラ人の多くは、その逃れた地でも差別や迫害を受けていたが、幸い彼らはイランで高等教育を受ける機会に恵まれ、英語も流暢に話す。さらに、顔立ちが日本人と似ているため、我々にとっては親しみやすい。

5. アフガン名産

アフガニスタンはもともと農業国家。果物栽培が盛んで、ドライフルーツやナッツの輸出大国であった。しかし、20年以上にわたる内戦により灌漑農地、施設は放置され、農業は疲弊・衰退してしまった。その後の再建復興の中で、農業従事者の4割程度は土地に戻ったが、生産高は10～15%程度しか回復していない。そうは言っても、カブール市内では野菜や果物が豊富に売られている。特に夏のメロン、ぶどう、冬のみかん、ザクロなど、日本のものより甘く美味しい。しかし、ぶどうやみかんは、日本で食べなれた者にとっては、種が多くて少々食べ辛い。アフガン人に、日本のぶどうやみかんには種がほとんどないのだと話をすると驚かれた。種があるのが本来の姿ではあるが、日本では人間の都合が良い様に改良し、本来の姿を変えてきた。これが一概に良いとは言えないようにも思うが、ここは日本の農業支援により、アフガニスタンの農業技術全般の発展を願いたい。



写真8 街の八百屋



写真9 ホテルの部屋で出されるナッツ

6. 治安の悪化

アフガニスタンの治安情勢は、2001年のタリバン政権崩壊後悪化の一途を辿っている。これまでのテロのほとんどは、カブール市から離れた地方で起こっていたため、身近に感じることは少なかった。しかし昨年12月以降は、警備の極めて厳しいカブール市中心部でいくつものテロ事件が発生しており、テロの脅威が身近に迫ってきていることを感じる。さらにその対象も、軍および警察から、援助関係者を含むソフトターゲットに移行してきている。

一方で、アフガニスタン政府は昨年9月に発出された大統領令に基づき、最終的にすべての民間警備会社を解散・撤退し、その機能を内務省（警察）に移管すべく取締りを開始した。現在多くの外交団、軍隊、援助機関が民間警備会社を使っており、早急な移管は内務省の吸収能力からして非現実であろう。しかしこれが現実となれば、日本の民生支援の継続は困難な状況になろう。このような理不尽な事態は必ずと言ってい

いほど、汚職が絡んでいる。昨年末には突然、防弾車が登録制となり、申請してもなかなか許可が出ず、内務省によって大量の防弾車が没収されるという事態が発生した。これは防弾車のレンタル会社を使わせたいという思惑が見える。

7. 貧困

アフガニスタンは現在、先に述べた治安悪化に加え、貧困と言う大きな問題を抱えている。2009年度の一人当たりの国民所得は、500ドル程度であり、世界182カ国中165位と最貧国の一つである。それでもGDPは、2002年比の3倍に増えている。

カブールに滞在して思うことは、給与格差が非常に大きいこと、またその所得に反して物価が高いことである。公務員の給与は月100ドル程度である。カブールの物価を考えると、月100ドルの収入で生活できるとはとても思えない。公務員の生活は、公務員の立場を利用した副業、賄賂、ドナーからの手当て等によって成り立っているようだ。

一方で、アフガニスタンは被援助大国であるため、英語ができ有能な人間は、多くの援助団体を渡り歩き、一般人とは桁違いの高額報酬を得ている。公務員の給料が低いため、有能な人材は外国資本の団体へ流れてしまう。この国を動かしていくべき公務員に優秀な人材が集まらないと言う実態は、今後の国の復興・発展にとって大きな障害であろう。

現在、アフガニスタンの国家予算の約9割は国際援助で賄われている。この経済成長を支えている支援金が今後先細りになるのは確実であり、各国ドナーはアフガニスタンの自立経済の確立に向けて支援を行っている。しかし、復興に向けての一番の鍵を握るのはこの国自身であり、彼らの努力が必要なことは言うまでもない。

8. 最後に

いずれにしても筆者が見たのは、近代的なビルも建設され物資も豊富で活気溢れる首都カブールである。地方に行けば、のどかで自然の美しい農村部の伝統的な暮らしがあり、また逆に反政府勢力とアフガン国軍、外国軍が戦闘を激しく行っている南部など、同じ国の中でもまったく異なる状況にあるであろう。今後、治安が安定してくれば、地方の暮らしや美しい自然、文化遺産など、違ったアフガニスタンの姿を見て廻りたいものだ。

水理・水文モデルの開発基盤となる共通プラットフォーム（CommonMP）について

技術委員会 河川部会長 田子洋一

1. はじめに

現在、国内外には数多くの水理・水文解析ソフトウェアが存在する。これらは通常、開発機関ごと、研究所ごとに独自の知見や工夫を導入し、個別の水理現象の解明等の研究および河川・下水道事業の実務に用いられてきた。

しかしながら、これらのソフトウェアの多くが特定の用途での利用に限られており、他の解析ソフトウェアの利用や連携した解析を行うことができない。たとえば都市域の複雑な流出・氾濫現象などの一連の現象を個々の現象の組合せとしてとらえ、開発者や解析項目の異なるソフトウェアを任意に組み合わせて複合的な解析を行うことは困難である。また、同種の解析ソフトウェア同士を同じ条件で比較する機会も少ないため、解析ソフトウェアの有する精度等の信頼性や解析手法の透明性についても十分に説明できない状況にある。

加えて、国土交通省が開発し、供用を開始しているXバンドMPレーダ¹⁾を活用した解析ソフトウェアの開発・使用に際しても共通したプラットフォームの開発が望まれている。

2. 海外での取り組み

海外でも、英国HR Wallingford（元国立水理研究所）のInfoWorksシリーズや、デンマークDHI（デンマーク水理環境研究所）のMIKE、MOUSEシリーズなどの水理・水文解析ソフトウェアが独自に開発され、世界各国で利用されてきた。しかしながら近年、欧州連合（EU）の資金援助の下、既存のソフトウェアを組み合わせることで使える共通基盤（プラットフォーム）「OpenMI（Open Modeling Interface、図1参照）」が開発され、既に実用化されている。また、米国でも同様の検討が進められている。

OpenMIは、14団体7カ国とEUの出資で開発された水理解析のフレームワーク（データ交換インターフェース）で、例えばMIKE11とInfoWorksなどが同期して計算できるようになっている。2007年よりOpenMI Associationが組織され、開発及び管理運営を行なっている。

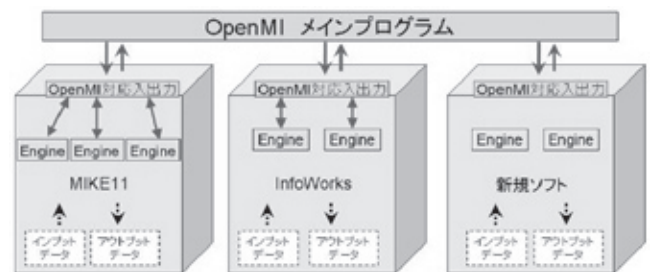


図1 OpenMIの複数のソフトウェア連結イメージ

3. 日本での取り組み

このような状況に鑑み、日本国内においても、さまざまな水理・水文現象の複合現象を解析するために、複数の解析エンジン（要素モデルと呼ぶ）を自由に組み替え同時に稼働させることができる共通プラットフォームの開発が、国土交通省国土技術政策総合研究所を中心に急ピッチに進められている。本プラットフォームは「CommonMP（Common Modeling Platform for water-material circulation analysis）」と呼ばれ、2009年3月にプロトタイプが、2010年3月には実用版のVer1.0がそれぞれリリースされた（図2、図3参照）。²⁾

本プラットフォームの開発により、単に水理、水文、水質モデルだけでなく、それをとりまく流域の物質循環の複雑系までも統合した解析が可能となり、レーダデータを直接読み込んだ解析をはじめ、洪水管理、流域管理、水政策全体の検討などのツールの一つとなることが期待される。また、水・物質循環等のモデル開発環境の提供は、本分野の研究開発の活性化にも寄与するものである。

なお、CommonMPのインターフェースにはGIS機能も付加されており、視覚的にも優れたものとなっている。

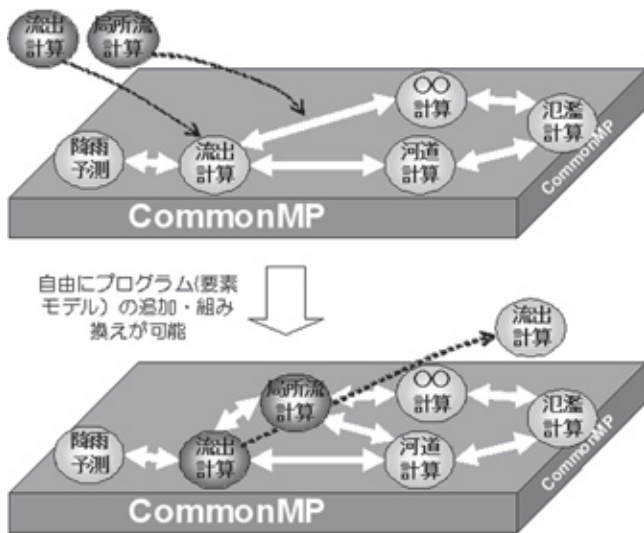


図2 CommonMP上でのプログラム組み換えイメージ

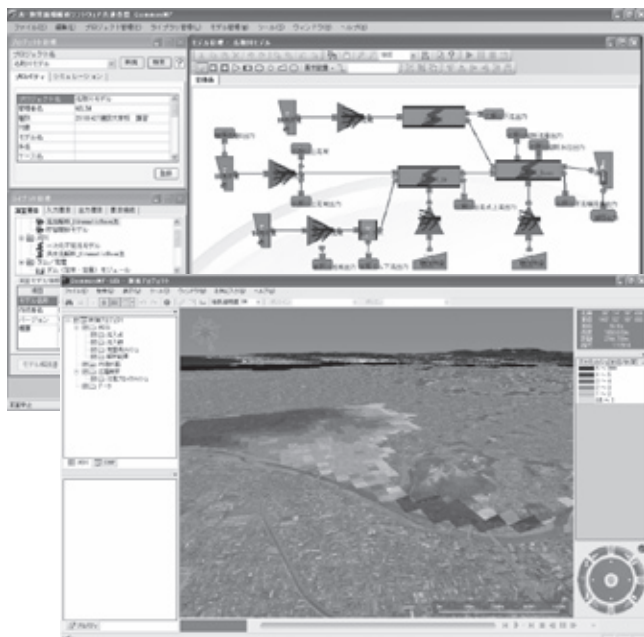


図3 CommonMPのユーザインターフェース

4. CommonMPの開発状況

現在、CommonMPの開発は、後述する「CommonMP開発・運営コンソーシアム」が中心となっているが、このプラットフォーム上で稼動するプログラム（要素モデル：以後こう呼ぶ）の開発が進められている。

東北地方整備局では、まず、洪水予測の精度向上を目指し、使用頻度の高いモデルを要素モデルとして検討しており、将来的にはCommonMPのホームページの要素モデルライブラリに登録予定である（時期未定）

今後、これらの要素モデルが公開されれば、CommonMP上で同一モデルで計算をする限りは、何

処の誰が計算しても同じ結果が得られるようになる。なお、要素モデルの開発・公開は国道交通省だけでなく、京都大学等一部大学でも先行的に行われている。³⁾

5. CommonMP活用の展望

それでは、今後、CommonMPの活用が義務付けられると我々コンサルタントと発注者との関係はどのように変化するのでしょうか？ 最も気になる点である。個人的な考えであるが私が想定している今後の業務内容の変化について以下に示す。

現状：

解析計算はすべてコンサルタントが実施しており、結果のみを発注者に提出。

発注者は、コンサルタントの計算等を直接トレース・チェックすることができない。

今後：（コンサルタント）

- 解析計算のプロジェクト作成や複数ケースの計算等はコンサルタントが実施し、結果に加えCommonMP上で構築したプロジェクトも提出することとなる。
- コンサルタントの業務の主体が、プログラムを用いて計算する部分から、シナリオ作成、企画提案や、課題・予測結果の評価・分析、対策提案などの本来のコンサルティング部分に移ることとなる。
- 登録された要素モデルを活用することにより、水質・環境・水循環等の周辺分野や、下水道との連携・複合分野の解析、発注者への技術提案なども可能となる。

（発注者）

- 発注者は、提出されたプロジェクトにより、全く同じ計算ができるようになる。このため、計算条件の詳細確認や、条件変更等による感度分析などが、自ら行えるようになる。
- 周辺分野や、河川・下水道連携分野などでの対応についてもコンサルタントから技術提案を受け、河川管理の高度化につなげていくことができるようになる。

以上は総論であるが、たとえば、水文観測、測量等データの作成分野では以下の様になると想定される。

現状：

- 観測、測量結果等を取りまとめ、提出様式は仕様書に定められた様式に従って発注者に提出。

今後：（コンサルタント）

- 観測、測量結果のとりまとめ、発注者へ提出は変わらない。仕様書にCommonMP対応フォーマットでの提出が記載されれば、それに従うこととなる。
- また、各種データの表示・加工・管理のために必要となるCommonMP-GIS関連ツールの開発提案など

も業務となる。

(発注者)

- 発注者は、提出されたデータ及びCommonMP、CommonMP-GISを活用し、成果を表示・加工したり、管理を行っていくこととなる。

この他、平常時・洪水時の調査・管理に関する検討、洪水予測システム、氾濫予測システム等の構築検討についても今後業務のあり方が変化していくものと想定される。

また今後は、CommonMPのリアルタイム化、開発済みの要素モデルのバージョンアップ等に加えて、水質・環境分野、水循環分野で必要となる要素モデルの開発を進めていく計画である。

6. おわりに

地球温暖化に伴う水害被害の拡大化への対応のため事業の透明性確保や国民への説明責任に対する対応も重要であり、CommonMPはそのための有効なツールと位置づけられる。CommonMPの普及・発展に向け、国土交通省の関係部局、(社)土木学会、(社)建設コンサルタンツ協会及び(社)全国上下水道コンサルタンツ協会により「CommonMP開発・運営コンソーシアム」が設立され、産官学連携による研究成果や技術の融合が期待されている。

我々建設コンサルタン業界に所属する技術者としては今後も技術開発を継続し、最新の技術を活用した高精度で透明性の高い防災情報の提供を行っていくことが、安全・安心の地域づくりのために不可欠である。

なお、CommonMPの活用のための講習会等は、国土交通省の職員に対してはH22年度から開始されている状況であり、建設コンサルタンツ協会も各支部技術委員会が主催で開催しており、東北支部においても平成22年12月14日に開催済みである。

平成23年度も、講習・演習会を開催予定であり、国土交通省職員とコンサルタント社員との意見交換会も開催予定である。

ぜひ、CommonMPを自分のPCに移植し、実際に稼働させ、河川・下水道に関する技術者としてのキャパシティーを拡大することをお勧めする。

(参考HP等)

- 1) XバンドMPレーダHP
<http://www.river.go.jp/xbandradar/index.html>
- 2) 国土技術政策総合研究所 CommonMP HP
<http://framework.nilim.go.jp/index.html>
- 3) 京都大学 CommonMP ホームページ
<http://hywr.kuciv.kyoto-u.ac.jp/commonmp/commonmp.html/>

国内旅行を楽しむ

大日本コンサルタント(株) 田 沢 重 久

皆さん、旅行はお好きでしょうか。最近、気軽に行ける国内旅行が見直されています。私は大好きな国内旅行について書いてみることにしました。旅の楽しみには、名所・旧跡地を訪ねたり、景色を楽しんだり、名物料理を食べたり、地元の方とのコミュニケーションを図ったりと色々あります。私は、それに加えて、出来るだけ写真を撮るようにしています。

さて、今回「私の趣味」ということ執筆を依頼されましたが、以前行った広島旅行について書いてみました。しかし、紀行風になってしまいましたので、どうかご容赦ください。

1. 路面電車 (LRT)

広島市内に入って最初に目についたのは、路面電車でした。道路の中央部を電車が走っているのです。以前は路面電車が走っていた街も自動車が増えるにつれて、姿を消していった街が多いと思います。私が住んでいる仙台市も以前は路面電車が走っていたとのことでした。

最近、ヨーロッパで路面電車が見直されているようです。私は、広島市内で移動する際は、ほとんど路面電車を利用しました。路面電車の通っている路線では、電車の通る幅の分、自動車の車線数が少なくなり、交差点では電車に道を譲る必要があり、そのため、自動車を運転する側からすれば、路面電車は無い方が良いのかもしれませんが。ただし、都市部の道路はどこも交通量が飽和状態で、車線数を増やしても、その分交通量が増えるだけといった状況を考えると、路面電車は都市にこそふさわしいのかもしれないと思うようになりました。それに、市民の足である路面電車に自動車が道を譲っているのを見ると、どこかほっとした気分になりました。

広島市内を走る路面電車は、広島市のシンボルで、大正元年の創業当初から現在まで、最も気軽な交通手段として親しまれています。宮島線を利用すれば郊外へのアクセスも簡単です。料金は市内均一料金で、大人が150円、子供が80円です。料金を追加すれば、宮島まで利用することができます。

広島市の路面電車は新しい車両も投入して、市民の快適な移動手段として市民から受け入れられてるようです。

路面電車の車両ですが、5000型は日本で2番目の超

低床車両で、「GREEN MOVER」の愛称で呼ばれています。ドイツ・シーメンス社製「コンビーノ」を広電仕様とした車両なそうです。現在、広電の主力車両となっています。

5100形は市内線の一段の超低床車化を目指して導入された車両で、国産初の超低床台車を採用しており、開発には広島電鉄自身も加わっており、先に導入された5000形の経験を生かして各所に改良が加えられ、乗客・乗務員の両方がより使いやすいように設計されているとのこと。現在は、主に広島駅～広島港の路線に使用されています。



広島市の路面電車 (新型)
5000形 (GREEN MOVER)



広島市の路面電車 (最新型)
5100形 (GREEN MOVERmax)

2. 広島平和記念資料館

1945年8月6日、原子爆弾は、広島市の地上580メートルの上空で目くらむ閃光を放って炸裂し、爆心地から半径2キロメートルに及ぶ市街地の建物が跡形もなく壊され焼きつくされました。多くの人が死に、生き残った人も強烈な熱線によって焼け焦げ、血みどろになったボロボロの衣服をわずかに身にまとい、苦しみながら瓦礫の街を逃げ惑ったのです。火傷を負った人々が入ったという川も自分の目で見たせい、涙が込み上げました。

資料館には、強烈な熱線によって身を焼かれ、手の指が氷柱のように溶け、苦しみながら逃げ惑う親子の人形が展示されています。ガイドさんの話ではその人形は以前、顔も焼けただれた状態で展示されていたそうですが、遺族から顔だけは、普通の顔にしてほしいとの要請を受け、普通の顔に付け替えたそうです。目を覆いたくなる反面、現実を直視しなければならないと思いました。

私が路面電車で、広島平和記念資料館へ移動している途中、欧米人の親子連れも電車に乗っており、父親が息子に英語「どうしてもおまえに（原爆の悲惨さを）見せておきたい。」と言っていたのが印象的でした。

入館料は、大人（大学生以上）50円（30人以上の団体は40円）となっています。

3. 広島平和都市記念碑

過去帳と呼ばれている原爆死没者名簿が納められており、死没者の名は毎年書き加えられています（1996年8月6日現在19万7045人）。形は、はにわの家型に造られており、犠牲者の霊を雨露から守りたいという気持ちを、表わしています。訪れた人の多くが、足を止めて祈りを捧げています。写真で記念碑の奥に写っ



広島平和都市記念碑

ているには原爆ドームです。

碑文について解釈はいろいろありますが、現在では国籍をこえて、この碑の前に立つすべての人間が自国の問題、人類の一人として、二度と核戦争をしないことを誓うことだという解釈がいきわたっています。

4. 原爆ドーム

原子爆弾の投下により広島市街は廃虚と化しました。「旧広島県産業奨励館」は、奇跡的に倒壊を一部免れ、それを「原爆ドーム」と呼んでいます。

この原爆ドームを残すことは原子爆弾による被爆の惨禍を伝える歴史の証、核兵器の廃絶と世界恒久平和を求める誓いのシンボルとして、非常に意義あるものです。世界の歴史においても普遍的な価値を有している貴重な遺産です。アクセスは、JR「広島駅」から「広電江波・宮島口行」の路面電車に乗り、約15分、「原爆前ドーム前」下車すると目の前にあります。



原爆ドーム

5. 広島風お好み焼き

お好み村の歴史広島名物・お好み焼の始まりは、戦前に庶民の間で親しまれた「一銭洋食」。小麦粉を水で溶き、ネギや干エビ、紅ショウガなどを入れて焼いたもので、町のお菓子屋さんなどで気軽に食べられる「おやつ」のような存在でした。食事として食べられるようになったのは戦後のことで、新天地広場をはじめ、市内一円で屋台や自宅の一部を使って商売を始めたようです。

栄養不足を補うために具としてキャベツや卵、魚介類、そば、うどんを入れるなど工夫を重ね、今の広島風お好み焼が誕生しました。

広島市内について驚いたのは、お好み焼きの店が多いことです。コンビニなみではないでしょうか。私は

広島風お好み焼が大好きになり、6日間滞在で12食頂きました。広島風お好み焼の特徴は焼きそばが入っているかどうかという人が多いのですが、むしろ生地が薄く、野菜が多いことではないかと思います。焼きそばは入れるか否かを聞かれますが、確かにほとんどの客は入れて食べます。お好み焼1枚とビールで十分夕食のボリュームがあります。

皆さんも、楽しい旅行をされてはいかがでしょうか。
以上



広島風お好み焼のお店

めでた、めでたの縁結び

～開山 1300 年 若松寺（山形県天童市）～

三協コンサルタント(株)代表取締役 大 高 廣 志

花笠音頭

“めでた、めでた”の若松様よ～♪

山形の夏を彩る、花笠祭りの花笠音頭に唄われている若松寺（じゃくしょう寺）は、山形市、天童市、上山市などを含めた地域の観音菩薩巡礼の一番札所として古くから信仰され、老若男女で賑い、参拝での出会いの縁でカップルが数多く誕生するお寺として有名であります。

この地方では“わかまつ様”と言えば縁結びのお寺として親しまれています。

最近、全国的にブレイク、若松観音

現在、ある事が発端で、縁結びのお寺さんとして全国的に知れ渡り、札所巡りが賑わった時代のように賑いを取り戻しつつあります。



冬の若松観音

全国的に有名に（女将さんのすすめで良縁）

昨年の11月に私は、地元の天童市の天童温泉「松伯亭あづま荘」に宿泊いたしました。

会食時に天童市の出羽桜吟醸酒“一路”が世界一だとか、天童出身の歌姫佐藤千夜子^{*}や、若松様は縁結びのお寺さんで全国的に有名になっているなど、四方山話しておりましたところ、いつものように女将さん（高橋ゆき江さん）が顔を出してくれました。

女将さんが部屋に入るやいなや、若松様の話しが顔

に当たたらしく、挨拶もそっちのけで、「それは、わたし・・・あたしがすすめたんですよ。それが、本当になって全国的に有名になったんですよ。」と、話に滑り込んできた。

その時の女将さんの口調をそのまま引用させていただきます。

「実は、天童でのイベントにお笑い芸人さん達を招いたんですよ。」

「その時イベントの打ち合わせ会をたまたまこのあづま荘で行ったんです。」

「わたし、スタッフの方とお話をする機会があったので縁結びの若松様のお話をして、是非参拝をされて良縁に恵まれてはどうか、とお薦めたしたところ、芸人さん全員がふたつ返事で、“行きましょう”となったんです。わたしは、すぐに若松様に電話をいたしまして、翌日に住職とお会いする約束をとりつけました。」

～若松様のクロス握手で良縁～

「翌日、芸人さんとスタッフの大勢が、お寺の近くの参道を花笠音頭にのって、賑やかに踊りながら境内に入り参拝したそうです。」

「その中の結婚願望のある有名なタレントYH女子が、住職に両手をクロスにして握手して貰ったそうです。」

「それが！まさに良縁を招く握手、皆様もご存知の通りタレントのYH女子はめでたく三ヵ月後に婚約をしたんですよ。」

「その、縁結びのクロス握手が広まり、全国から良縁を願って参拝に訪れ住職とクロス握手を求めるようになったんですよ。女性だけでなく、男性も訪れるんですよって。」

「へー女将さんがブレイクの縁を結んだんだ。」

「そうなんですよ。」（微笑）

「ところで、女将さんの腕にかけている数珠も若松様の数珠ですか。」

「もちろん、そうですよ。」

「女将さん、数珠をかけて良縁を求めたら、旦那さんが可愛そうでないの？」

「わたしは旦那さん一筋です。この数珠は、お客様と良い縁を願ってかけているんですよー。」(笑)



女将さん

このように、めでためでたの若松様には、本当に御利益があると昔から伝えられており、まさに現代でもその御利益は消えることなく続いております。

建設コンサルタントの皆様、そして読者の皆様、家族の幸せ縁、お客様のすばらしき縁を願って一度参拝されてみてはいかがでしょうか。

※佐藤千夜子

(さとう ちやこ、1897年(明治30年)～1968年(昭和43年) 日本初のレコード歌手。本名は佐藤千代。山形県天童市出身。晋平節を世に広め、古賀政男の才能を発見したことはそれ以後の日本大衆音楽史の発展に大きな功績がある。華々しくかつ浮き沈み激しい人生は、NHK 朝の連続テレビ小説「いちばん星」のモデルとなった。

平成22年度講演会報告

平成22年度の講演会は、テーマを「高齢化社会に対応した社会資本整備のあり方」として、去る平成22年11月10日(水)にホテル法華クラブ仙台にて実施しました。始めは、「東北圏広域地方計画における東北の可能性」と題して原田吉信様（国土交通省東北地方整備局 企画部 環境調整官）から御講演を頂きました。次に、「仙台都市圏での大規模宅地開発の展開——今後のコンパクトシティの可能性——」と題して千葉昭彦様（東北学院大学 経済学部 教授）、そして、最後に、「福祉の交通・まちづくりからみたこれからの社会資本整備」と題して木村一裕様（秋田大学 大学院工学資源学研究所 教授）から御講演をいただきました。

なお、講演会を後援して頂いた国土交通省東北地方整備局、河北新報社、日刊建設工業新聞社、日刊建設産業新聞社日刊建設通信新聞社、建設新聞社並びに協賛頂いた社団法人土木学会東北支部、社団法人日本技術士会東北支部に御礼申し上げます。

講演会に先立ち、建設コンサルタンツ協会東北支部の遠藤敏雄支部長より主催者として、講演会の主旨等御挨拶を申し上げます。

次に、来賓挨拶として国土交通省東北地方整備局企画部長の川嶋直樹様よりお話を頂きました。

原田吉信様からは、東北圏広域地方計画を基に、お話を頂きました。

千葉昭彦様からは、仙台都市圏における高齢化の実状についてお話を頂きました。

木村一裕様からは、高齢者のニーズを踏まえた交通支援等について、お話を頂きました。



千葉 昭彦 氏
演題：仙台都市圏での大規模宅地開発の展開
——今後のコンパクトシティの可能性——
（東北学院大学 経済学部 教授）



木村 一裕 氏
演題：福祉の交通・まちづくり
からみたこれからの社会資本整備
（秋田大学 大学院工学資源学研究所 教授）



原田 吉信 氏
演題：東北圏広域地方計画における東北の可能性
（国土交通省東北地方整備局 企画部 環境調整官）



会場

平成 22 年度 現場見学会報告

技術委員会では、会員の技術力向上のため毎年現場見学会を計画しています。平成22年度は河川部会・環境部会の合同による「梨郷築堤－長井ダム－長井地区かわまちづくり－朝日フットパス－大江地区」の現場見学会を実施、また、構造部会では「仙台市地下鉄東西線【広瀬川橋梁外工区】」の現場見学会を実施しました。

現場見学会の実施にあたりましては、会員各社の方々は勿論、現場を管理する関係者の方々にはご多忙にもかかわらず、現場の案内、工事のご説明を頂き、紙面をお借りして御礼申し上げます。

○河川部会・環境部会合同現場見学会

日 時：平成22年10月7日(木)

主な見学場所：梨郷築堤－長井ダム－長井地区かわまちづくり－朝日フットパス－大江地区

参加者：27名

○構造部会現場見学会

日 時：平成22年11月17日(木)

主な見学場所：仙台市地下鉄東西線【広瀬川橋梁外工区】

参加者：27名



河川部会・環境部会合同現場見学会集合写真



構造部会現場見学会集合写真

平成 22 年度 構造部会「現場見学会」に参加して

アジア航測(株) 市野友教

1. 現場見学概要

- 開始日：平成22年11月17日
- 見学場所：宮城県仙台市青葉区
「仙台市高速鉄道東西線広瀬川橋りょう」
- 主催：建設コンサルタント協会東北支部
現在建設中である仙台高速鉄道東西線の広瀬川にかかる広瀬川橋梁の架設現場見学会が行われました。

2. デザインのコンセプト

- ①仙台市の象徴である広瀬川の景観を損なわないこと。
- ②隣接する大正15年に架橋された歴史的な橋「大橋」との調和がとれていること。
- ③公園を跨ぐため河川利用者に対して快適性を与えるデザインであること。
橋梁検討委員会によりデザイン競技が行われ、構造形式が決定されている橋梁です。

3. 広瀬川橋梁

広瀬川橋梁は、延長172mの3径間ラーメン箱桁橋です。本橋は、近接橋である歴史的橋梁（大橋）の曲線美との調和を図り、A1からP3区間に曲線形状を取り入れ、かつ柱頭部における桁の断面形状が逆三角形とすることで、河川構造物としての圧迫感を極力さげることが可能としています。

現場ではA1側、P3（西公園の橋始端）両側から見学を行いました。すでに写真-1のP1、P2、P3橋脚が完成しており、仮設中の主桁の断面を実際に見学することができました。



写真-1 P1橋脚

4. 西公園内の高架橋

仙台市内から広瀬川に向かって手前205mは、西公園の敷地を通るため高架橋となっています。87mの箱式擁壁と118mのRCスラブ式ラーメン高架橋の構成です。

P3側から見学を行いました。写真-2のように場所打ち杭の施工を行っている最中でした。写真-3のP3橋脚は西公園にいる歩行者が広瀬川を見た際に圧迫感とならないよう、中央が開く構造となっていました。また、P3橋脚の側面は曲線になっているため、施工に苦勞したとのことでした。P2橋脚は残念ながら見学することはできませんでした。



写真-2 場所打ち杭の施工

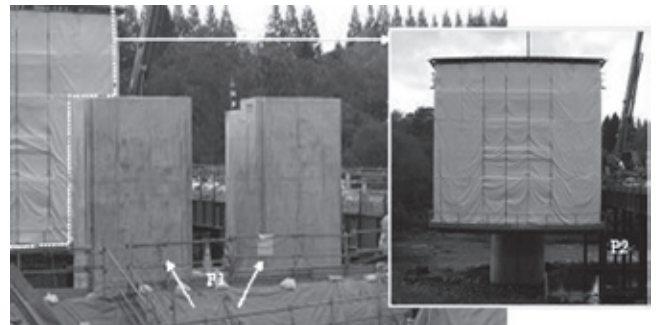


写真-3 橋脚（公園側）

5. おわりに

普段机上でしか見ることのない主桁の断面や場所打ち杭を見学できたこと、施工時の苦勞や留意点を知ることができたため、今後設計していく上で大変参考になりました。また、架設場所の景観に配慮した設計は重要であると認識しました。

最後に、現場で説明して下さった方、現場見学会を企画して下さい建設コンサルタント協会・東北支部の皆様から御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成 22 年度 構造部会「現場見学会」に参加して

八千代エンジニアリング(株) 内海 卓也

1. 現場見学会概要

開催日：平成22年11月17日(水)

見学場所：仙台市青葉区青葉山地内

広瀬川橋梁

主催：建設コンサルタント協会東北支部

仙台市地下鉄東西線の一区間を担う広瀬川橋梁の概要説明および上部工施工現場の見学会が行われました。

2. 広瀬川橋梁概要

広瀬川橋梁の架橋位置となる青葉山周辺区域は、仙台市の景観形成における重要な核として位置づけられています。そのため、本橋梁の設計の際にも、径間に十分配慮し、デザイン的に優れ、次世代にも誇れる橋梁の実現が求められており、その結果、デザインコンペという形で、橋梁設計業務を委託した橋梁です。

最終的に決定した橋梁形式は、広瀬川橋梁：3径間連続 PRC ラーメン箱桁橋（橋長172m=53.0m+70.0m+47.0m）+西公園高架橋 RC スラブ式 CFT 柱ラーメン高架橋（橋長118.0m）です。

広瀬川橋梁は公園を貫く橋で、分断イメージの軽減を考慮し、短いスパンでスレンダーな桁にすることで、居心地のいい広い桁下空間を確保できるような構造となっています。

西公園高架橋では、公園利用者と空間を共有する橋として、桁下空間を開放的にすることと、周囲の大樹との重なりを考え、柔らかな曲面を持つ橋桁とスリムな CFT 柱を採用しています。



パンフレットより抜粋

3. 現場見学内容

現場見学では、広瀬川橋梁の上部工の施工現場と西公園高架橋の基礎杭施工後の現場を見学しました。

広瀬川橋梁では、非出水期になり、仮橋が架けられ上部工施工の準備が行われていました。上部工の架設工法は片持ち架設工法を採用しており、張り出し施工の準備が行われていました。



張り出し施工準備風景

西公園高架橋では、杭打設が終わり杭頭処理を行っている現場を見学しました。また、西公園側では様々な試験が行われており、型枠のシートの種類の検討や CFT 柱の色の検討、また西公園高架橋の桁下の表面処理工法の検討などを行っていました。



西公園高架橋杭打設後風景

4. おわりに

身近な橋の施工現場でしたので、とても興味深く、これからの進捗に関心を持ちました。また現場見学会で得られた知識を、今後の業務に活かしていきたいと思えます。

最後に、現場で説明して下さった仙台市交通局の方、現場見学会を企画して下さい建設コンサルタンツ協会東北支部の皆様にご心から御礼申し上げます。有難うございました。

平成 22 年度 河川部会「現場見学会」に参加して

最上川をもっと好きになる

株式会社 建設技術研究所 野村 彩乃

入社を機に関東地方から仙台に移り住み、早くも3年目となりました。母方の祖母が秋田県に住んでおり、東北地方に縁はありましたが、いざ東北に住んでみると右も左もわからない、といった状況でした。「東北を知らない人間が、東北の仕事ができるわけがない」と思い立ち、約3年間、仕事やプライベートを通じて東北地方に親しんできました。もちろん、今回の見学地である最上川にも何度か足を運んだことがあります。

川や河畔の植物・昆虫、空や空気は、訪れるたびに異なる表情を見せてくれます。今回も新たな発見ができることに期待し、「最上川をもっと好きになる」ことを目標に掲げ、見学会に臨みました。

当日、各社から集まった建設コンサルタントは総勢28名。一日かけて、上流の梨郷地区から中流の大江までの各所を見学しました。

はじめに見学した梨郷地区では、山形河川国道事務所の小幡係長よりご説明をいただき、地区の歴史や事業の経緯、さらには整備順位のつけ方や合意形成の難しさなどを改めて学ぶことができました。

また、次の見学地、長井ダムでは長井ダム工事事務所の斎藤課長よりご説明をいただき、ダム事業の経緯や、諸元等のほか、地震への対応策についてのお話も伺うことができました。



長井ダムにて

こうした説明をいただくことにより、見るべきポイントを的確に捉え、現場を知ることができました。これまで事務所の方と一緒に現場を見るという機会はありませんでしたが、今回の見学会を通して、日ごろより現場を熟知している事務所の方々から現場の

見方・視点を学ぶことも重要なことだと改めて実感しました。

最後に見学した楯山公園のビューポイントでは視点の違いが顕著にあらわれていました（下の写真）。本見学会は河川部会と環境部会の合同見学会ということもあり、同じ箇所でも専門分野により視点が異なっていたのです。他分野の方のお話を伺うことができ、大変勉強になりました。美しさに感動するに留まらず、治水・利水・環境などといった様々な視点から自然と向き合うことができるのは、本業界の特権ではないでしょうか。



楯山公園ビューポイント

今回の見学会では最上川の雄大さと川がはぐくむ自然環境のすばらしさ、人と川とのつながりを実感でき、当初掲げていた目標を超える、「最上川に少し詳しくなる」ことができた1日でした。本当の意味で現場を知るためには、現場に出向く機会をできるだけ多く持ち、地域に密着することが必要であると思います。これにより愛情を持って自然に歩み寄ることで、より人と自然とが融和した社会の実現に近づくことができるのではないのでしょうか。

一技術者として、「もっと好きになる」だけでなく、「もっと詳しくなる」ことを新たな目標として今後の業務に取り組んでいきたいと思っています。

最後に、このような機会を与えてくださった皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。

平成22年度 河川部会「現場見学会」に参加して

河川・環境現場見学会に参加して

八千代エンジニアリング株式会社 内海 卓也

10月7日、総勢27名の参加による河川・環境現場見学会が開催されました。今年も、昨年度から行われている河川部会・環境部会合同での見学会ということで以下の場所を見学しました。

- ・梨郷築堤
- ・長井ダム
- ・朝日地区（フットパスなど）
- ・大江地区（ヤナ場、フットパスなど）

私個人的なことなのですが、4月に入社したばかりの新入社員であり、また、行っている業務も橋梁関係の業務を担当しており、今回の見学会の内容とはほとんど関係の無い業務を取り扱っているのですが、今回は視野を広げるという意味合いで、無理を言ってみて見学会に参加をさせていただきました。また、7月から仙台にやってきたばかりで、東北地方は初めてなので、地理的な事も学べたらと思い、参加させていただきました。このような、業務的にも地理的にも未熟者の私ですが、今回見学した箇所について感想を書かせていただきます。

まず始めに平成22年8月に完成した梨郷築堤に訪れました。過去に置賜地方では集中豪雨による水害が発生しており、住民の方も豪雨などの時には常に不安に脅かされていたとのこと。堤防自体まじまじと見た事はありませんでしたので、樋門の役割や堤防のり面の勾配のつけ方など学べ、とても勉強になりました。

続いて訪れたのは長井ダムです。学生時代に授業を通してダム見学には行ったことはあったのですが、今回訪れた長井ダムのような大きなダムは初めてなので、そのスケール感に圧倒されました。試験湛水も終わり、今後の運用に期待です。

続いて訪れたのは長井地区、朝日地区のフットパスです。フットパス？と聞き慣れない単語ですが、フットパスとは、イギリスを発祥とする“森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径（こみち）【Path】のことだそうです。最上川ではこのようなフットパスの整備が進んでおり、本当に自然と触れあえる良い環境づくりだなと思いました。長井地区のフットパスにおいては桜が多く植えられており、桜の

季節にはとてもきれいな小道となるとのことなので、また春に訪れたいと思いました。朝日地区のフットパスにおいては、長井地区に比べ本当に自然!!という感じで、フットパスを歩いていて本当に気持ち良かったです。最上川から望む土木遺産である眼鏡橋の風景がとても印象的でした。

最後に訪れたのは大江地区、ヤナ場と楯山公園に行きました。ヤナ場とは、川の中に足場を組み、木や竹ですのこ状の台を作った梁（やな）という構造物を設置し、上流から泳いできた魚がかかるのを待つ漁法であり、今回訪れたヤナ場では鮎が捕れるとのことでしたが、実際に泳いできた鮎を見ることはできませんでしたが、生簀にいた鮎を見る事ができたので雰囲気は味わえました。少し残念だったのは鮎を食べる事ができなかった事です。また次回リベンジしたいと思います。その後温泉に入る組と楯山公園組とに分かれ、私は楯山公園に向かいました。ここの公園は日本一の最上川のビューポイントと言われているらしく、その名に恥じないすばらしい景色を堪能する事ができました。下の写真は楯山公園での写真です。

本見学会では自然の素晴らしさを肌で感じ、またいろいろと知らなかった事を学べ大変充実した一日でした。最後に見学会を企画、運営して頂いた建設コンサルタンツ協会東北支部の委員の方々に深く感謝いたします。ありがとうございました。



楯山公園での写真

平成22年度 意見交換会について

建設コンサルタンツ協会の重要事業としております、発注者との意見交換会は、建設コンサルタンツ協会本部の「要望と提案事項に支部会員からのアンケート調査、発注者の実態を把握・調査し、幹事に諮り議題を決め、平成22年9月6日の岩手県県土整備部を始めに11月18日の宮城県土木部で終了しました。

また、年明け1月17日には、東北地方整備局と第6回目の意見交換会を実施しました。

岩手県県土整備部との意見交換会

日時 平成22年9月6日

出席者 (県) 沢口河川港湾担当技監他 6名
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 13名



沢口河川港湾担当技監のご挨拶

議 題 (県からの報告)

「建設工事等に係る入札契約制度改善の取り組み」
について
(協会)

1. 入札契約制度について
2. 品質確保の取り組みについて

福島県土木部との意見交換会

日時 平成22年10月6日

出席者 (県) 沼田土木部次長他 6名
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 16名



沼田土木部次長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 地方における公共事業費の確保に関する要望と提案
2. 入札・契約制度に関する要望と提案
3. 品質の確保と照査に関する要望と提案
4. 建設コンサルタントの新たな役割に関する要望と提案
5. 業務の円滑な遂行に関する要望と提案
6. 発注状況と今後の見通しに関する質問

山形県県土整備部との意見交換会

日時 平成22年9月14日

出席者 (県) 鹿野県土整備部長他 7名
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 22名



鹿野土木部長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 地方における公共事業費の確保に関する要望と提案
2. 入札・契約制度に関する要望と提案
3. 品質の確保と照査に関する要望と提案
4. 建設コンサルタントの新たな役割に関する要望と提案
5. 業務の円滑な遂行に関する要望と提案
6. 発注状況と今後の見通しに関する質問

秋田県建設交通部との意見交換会

日時 平成22年10月14日

出席者 (県) 山下県土整備技監他 6名
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 17名



山下県土整備技監のご挨拶

議 題 (協会)

1. 地方における公共事業費の確保に関する要望と提案
2. 入札・契約制度に関する要望と提案
3. 品質の確保と照査に関する要望と提案
4. 建設コンサルタントの新たな役割に関する要望と提案
5. 業務の円滑な遂行に関する要望と提案
6. 発注状況と今後の見通しに関する質問

仙台市都市整備局との意見交換会

日時 平成22年10月27日

出席者 (仙台市) 小島都市整備局次長他 6名
(協会) 遠藤支部長他幹事 12名



小島都市整備局次長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 地方における公共事業費の確保に関する要望と提案
2. 入札・契約制度に関する要望と提案
3. 品質の確保と照査に関する要望と提案
4. 建設コンサルタントの新たな役割に関する要望と提案
5. 業務の円滑な遂行に関する要望と提案
6. 発注状況と今後の見通しに関する質問

青森県県土整備部との意見交換会

日時 平成22年11月1日

出席者 (県) 大澤県土整備部理事他 11名
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 12名



大澤県土整備部理事のご挨拶

議 題 (協会)

1. 地方における公共事業費の確保に関する要望と提案
2. 入札・契約制度に関する要望と提案
3. 品質の確保と照査に関する要望と提案
4. 建設コンサルタントの新たな役割に関する要望と提案
5. 業務の円滑な遂行に関する要望と提案
6. 発注状況と今後の見通しに関する質問

宮城県土木部との意見交換会

日時 平成22年11月18日

出席者 (県) 伊藤土木部次長他 4名
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 14名



伊藤土木部次長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 地方における公共事業費の確保に関する要望と提案
2. 入札・契約制度に関する要望と提案
3. 品質の確保と照査に関する要望と提案
4. 建設コンサルタントの新たな役割に関する要望と提案
5. 業務の円滑な遂行に関する要望と提案
6. 発注状況と今後の見通しに関する質問

支部活動報告

東北地方整備局との意見交換会

日時 平成23年1月17日

出席者（整備局）川嶋企画部長他 6名
（協会）遠藤支部長他幹事 17名



川嶋企画部長のご挨拶

意見交換

1. 品質確保に向けた取り組みについて
2. 入札契約制度の改善に向けた取り組みについて
3. 発注状況と今後の見通しについて



遠藤支部長のご挨拶

整備局からの情報提供

- H23国交省予算の概要
- 最近の発注状況
- 東北圏広域地方計画
- 発注者支援業務等に係る発注の見通しの公表

平成22年度 RCCM資格試験

シビルコンサルティングマネージャー（RCCM）の役割は、技術管理者または技術士のもとに、設計業務共通仕様書（旧建設省）において規定している管理技術者・照査技術者として、業務に関する技術上の事項を処理し、または業務の照査の任にあたるものです。

RCCM 資格制度は、建設コンサルタンツ協会が平成3年度に創設し19年になります。平成7年度に建設省は標準契約約款の制定と、これに伴う共通仕様書の全面改訂を行い、これより設計業務等の受注にあたっては、管理技術者と照査技術者は技術士又は RCCM 資格保有者と規定されました。

平成22年度の RCCM 資格試験は平成22年11月14日仙台会場（東北文化学園専門学校）で実施され、561名が受験され、156名が合格しました。

なお、平成23年度の RCCM 資格試験は、平成23年11月13日の予定です。

平成22年度受験地別・部門別合格状況

試験日 平成22年11月14日

合格発表 平成23年3月1日

部門	東 京			大 阪			福 岡			那 覇			札 幌			名古屋			仙 台			合 計		
	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
1. 河川、砂防及び海岸	173	60	34.7	285	98	34.4	171	68	39.8	4	1	25.0	94	35	37.2	95	32	33.7	97	26	26.8	919	320	34.8
2. 港湾及び空港	50	15	30.0	24	8	33.3	21	2	9.5	7	2	28.6	15	2	13.3	5	0	0.0	3	0	0.0	125	29	23.2
3. 電力土木	2	1	50.0	2	1	50.0	2	1	50.0	1	0	0.0	1	1	100.0	1	0	0.0	0	0	0.0	9	4	44.4
4. 道 路	267	54	20.2	314	69	22.0	255	47	18.4	48	5	10.4	157	40	25.5	128	27	21.1	141	22	15.6	1,310	264	20.2
5. 鉄 道	5	1	20.0	6	0	0.0	10	4	40.0	0	0	0.0	0	0	0.0	4	2	50.0	1	0	0.0	26	7	26.9
6. 上水道及び工業用水道	58	14	24.1	70	25	35.7	26	7	26.9	7	2	28.6	1	0	0.0	35	14	40.0	24	10	41.7	221	72	32.6
7. 下水道	81	14	17.3	74	18	24.3	64	16	25.0	15	2	13.3	9	4	44.4	44	11	25.0	26	6	23.1	313	71	22.7
8. 農業土木	41	6	14.6	29	11	37.9	61	14	23	21	4	19.0	45	18	40.0	43	14	32.6	34	7	20.6	274	74	27.0
9. 森林土木	28	5	17.9	25	8	32.0	34	10	29.4	2	2	100.0	10	3	30.0	31	12	38.7	32	14	43.8	162	54	33.3
10. 造 園	12	4	33.3	18	2	11.1	5	2	40	1	0	0.0	4	4	100.0	10	6	60.0	2	1	50.0	52	19	36.5
11. 都市計画及び地方計画	63	16	25.4	49	14	28.6	24	9	37.5	4	2	50.0	10	2	20.0	39	16	41.0	19	9	47.4	208	68	32.7
12. 地 質	42	18	42.9	37	10	27.0	29	8	27.6	2	1	50.0	14	3	21.4	13	2	15.4	14	6	42.9	151	48	31.8
13. 土質及び基礎	71	29	40.8	87	22	25.3	91	34	37.4	17	4	23.5	37	11	29.7	45	19	42.2	46	8	17.4	394	127	32.2
14. 鋼構造及びコンクリート	111	37	33.3	128	31	24.2	107	33	30.8	7	7	100.0	32	11	34.4	40	15	37.5	52	20	38.5	477	154	32.3
15. トンネル	18	4	22.2	16	7	43.8	8	3	37.5	0	0	0.0	3	2	66.7	6	1	16.7	5	4	80.0	56	21	37.5
16. 施工計画、施工設備及び積算	121	37	30.6	57	23	40.4	45	15	33.3	13	0	0.0	18	4	22.2	23	8	34.8	21	8	38.1	298	95	31.9
17. 建設環境	68	16	23.5	38	16	42.1	33	6	18.2	16	8	50.0	44	19	43.2	12	4	33.3	21	7	33.3	232	76	32.8
18. 機 械	9	2	22.2	2	1	50.0	2	0	0.0	0	0	0.0	1	0	0.0	1	0	0.0	1	0	0.0	16	3	18.8
19. 水産土木	2	0	0.0	0	0	0.0	3	1	33.3	4	3	75.0	2	1	50.0	1	0	0.0	1	1	100.0	13	6	46.2
20. 電気・電子	44	11	25	34	8	23.5	16	0	0	2	1	50.0	7	1	14.3	7	1	14.3	9	2	22.2	119	24	20.2
21. 廃棄物	6	2	33.3	0	0	0.0	1	0	0	0	0	0.0	2	1	50.0	2	0	0.0	1	1	100.0	12	4	33.3
22. 建設情報	29	5	17.2	24	8	33.3	9	4	44.4	1	1	100.0	17	8	47.1	19	2	10.5	11	4	36.4	110	32	29.1
合 計	1,301	351	26.9	1,319	380	28.8	1,017	284	27.9	172	45	26.2	523	170	32.5	604	186	30.8	561	156	27.8	5,497	1,572	28.6

平成22年度 RCCM登録更新講習会

登録更新講習会は「シビルコンサルティングマネージャー（RCCM）資格制度施行規程」の第12条（登録の有効期間及び登録の更新）により、登録の有効期間は、合格証が交付された日から4年間で、登録の更新を受けようとする者は、更新の日から1年間に行われた登録更新講習会を受けなければならないことになっている。

平成22年度の登録更新講習会は、平成6、10、14、18年度の「RCCM 資格試験」の合格者を主な対象者として、仙台会場（メトロポリタンホテル仙台）では、平成22年10月18日午前・午後に分かれて実施され、385名が受講されました。

なお、仙台会場での講習内容は下記のとおりです。

午前の部

- | | | |
|-------------------|----------------------|--------|
| 1. 挨拶・講話 | (社)建設コンサルタンツ協会 常任理事 | 山本 洋一 |
| 2. 技術課題と最近の動向 | (財)運輸政策研究機構 運輸政策研究所長 | 森 地 茂 |
| 3. 建設コンサルタンの現状と課題 | 日経コンストラクション誌 副編集長 | 高 橋 秀典 |
| 4. 登録更新ガイド・修了証書交付 | | |

午後の部

- | | | |
|-------------------|----------------------|--------|
| 1. 挨拶・講話 | (社)建設コンサルタンツ協会 常任理事 | 山本 洋一 |
| 2. 技術課題と最近の動向 | (財)運輸政策研究機構 運輸政策研究所長 | 森 地 茂 |
| 3. 建設コンサルタンの現状と課題 | 日経コンストラクション誌 副編集長 | 高 橋 秀典 |
| 4. 登録更新ガイド・修了証書交付 | | |

平成22年度 RCCM 登録更新講習会受講者数

会 場	名	申 込 者 数	受 験 者 数	受 講 率	実 施 月 日	
札 幌	午前	155	155	100.0%	22. 10. 5	
	午後	179	178	99.4%		
仙 台	午前	175	175	100.0%	10. 18	
	午後	210	210	100.0%		
東 京	第一	午前	243	240	98.8%	11. 22
		午後	277	277	100.0%	
	第二	午前	123	120	97.6%	11. 24
		午後	203	203	100.0%	
	第三	午前	98	98	100.0%	12. 9
		午後	138	138	100.0%	
新 潟	午前	105	105	100.0%	10. 12	
名 古 屋	午前	284	281	98.9%	10. 26	
	午後	239	238	99.6%		
大 阪	午前	227	227	100.0%	10. 21	
	午後	313	313	100.0%		
	午前	142	141	99.3%	11. 25	
広 島	午前	122	122	100.0%	10. 14	
	午後	221	218	98.6%		
高 松	午前	262	261	99.6%	10. 8	
	午後	247	246	99.6%		
福 岡	午前	247	246	99.6%	10. 29	
	午後	298	298	100.0%		
沖 縄	午前	128	128	100.0%	10. 1	
合 計		4,389	4,372	99.6%		

総務委員会の紹介

総務委員長 洪 沢 雄 二

1. 総務委員会の主な活動

総務委員会は、建コン東北支部の対外活動を担当しているほか、RCCM資格試験対応、独占禁止法啓蒙などの活動を行っています。主な活動の内容は、以下のとおりです。

①発注者との意見交換会

建コン東北支部では、毎年、9月ごろから年末にかけて、幹事会メンバーが東北地方整備局及び東北6県を訪問し、建設コンサルタント業務の発注者に対して「要望と提案」を行う「意見交換会」を実施しています。平成22年度からは、仙台市との意見交換会も開催するようになりました。

総務委員会では、この意見交換会における議題案を作成し幹事会に提案するほか、各県等との意見交換会の日程調整、議題案の事前協議などの対応を行います。

意見交換会の議題は、「入札・契約制度に関すること」、「品質確保と照査に関すること」、「発注者支援業務など新たな建設コンサルタントの役割に関すること」、「業務の円滑な遂行に関すること」、「建設コンサルタント業務の発注状況に関すること」など多岐にわたっており、支部会員の皆さんのニーズをタイムリーに反映できるよう努力しています。

②RCCM登録更新講習会

当協会が実施している資格制度RCCM（Civil Engineering Consulting Manager）の資格登録者は、4年毎に登録更新が必要となり、更新には講習会の受講が義務付けられています。総務委員会は、毎年秋に開催されるこの講習会の開催準備、受付、進行などの支援活動を行っています。

③RCCM資格試験

RCCM資格試験は毎年11月頃に実施されますが、仙台会場での試験実施にあたり、支部会員のご協力を得ながら、試験監督員の選定、会場の準備・運営、試験監督などの支援を行っています。平成22年度の仙台会場での受験申込者は800名となりました。来年度からは受験資格が緩和されることもあり、さらに受験者が増加するものと思われます。

④独占禁止法研修会

独占禁止法遵守に関する継続的な啓蒙活動の一環として、毎年11月頃に(社)建設コンサルタンツ協会東北支部、(社)全国上下水道コンサルタント協会東北支部、(社)

日本補償コンサルタント協会東北支部、宮城県測量設計協会、東北地質調査業協会、東北測量設計協会の6団体の共催で「独占禁止法研修会」を実施しています。当日の進行役は当協会東北支部の総務委員が担当しており、毎年、多くの会員が参加しています。

⑤支部定例総会

毎年5月に開催される支部総会の準備・運営等の支援活動を行っています。

2. 今後の課題

総務委員会は、発注者に対する要望と提案を行い、会員にとってよりよい市場環境を創出していくための縁の下の力持ちともいえる重要な役割を担っています。近年の激変する市場環境の中で、今後とも、会員メリットが感じられるような活動を展開したいと考えています。また、RCCM資格試験及び登録更新等を継続的かつ円滑に実施することで、より多くの有資格者を増やし、協会加盟各社の技術力の向上に少しでも寄与していきたいと考えています。さらに、コンプライアンスの徹底を図るため独占禁止法研修会を継続的に実施していきますので、会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしています。このような活動を通じて、今後とも建コン東北支部の発展に向けて頑張っ

以上



発注者との意見交換会



独占禁止法研修会

品質セミナーの報告

編集部

去る平成22年10月20日(水)にハーネル仙台(仙台市内)にて、社団法人建設コンサルタンツ協会主催の「品質セミナー“エラー防止のために”」を実施しました。

このセミナーは、社団法人建設コンサルタンツ協会の本部(技術委員会/照査に関する特別WG)が、管理技術者、担当技術者などの実務者層を対象にした成果品のエラー防止を図るための講習会で、恒例となっております。

内容は、本部で取りまとめている「成果品に関するエラー事例集」を主な資料として、エラー事例の紹介、原因の分析、実務上の留意点、対策の提案となっております。このセミナーは、参加者のアンケートで評価が高く、今後も資料を改訂しながら、実施する予定となっております。

プログラム

はじめに	
「品質向上推進特別本部」活動報告	
エラーの技術的分析と改善策	道路/トンネル
	橋梁
	河川構造物
	砂防・急傾斜
土質・地質調査の計画、実施及び結果の評価	
全体まとめ	
質疑応答	

「公共工事の品質確保の促進に関する法律」(略称:品確法)が平成17年4月1日に施行され、品質がますます重視されるようになってきました。品質の良し悪しの前に、成果品のエラー防止に取り組み、発注者の皆様に御迷惑をかけないよう取り組む必要があります、参加者の皆さんも真剣に講習を受けていました。

技術者が、エラーを防止するために、過去の事例から学んだり、原因が何かを考えたり、先輩技術者から留意点や対策を学ぶことは、会社にとっても、個々の技術者にとっても有意義なことであったと思います。さらに、エラー防止に関する意識を継続的に持ち続けることも重要だと思います。

エラー防止の即効薬は、無いものの、このような講習会への参加やOJTを含めた教育で事例を学んだり、意識を持続させるといった日頃の地道な活動がエラーを低減するのではないかと思います。

関係者の皆様、どうもありがとうございました。来年もよろしく御願いたします。

今回参加できなかった技術者の皆様、次回は参加してみてもはいかがでしょうか。



セミナーの状況



会場

平成22年度 橋梁技術講演会及び高校生「橋梁模型」作品発表会

平成22年度橋梁技術講演会及び高校生「橋梁模型」作品発表会審査会が2011年2月23日(水)せんだいメディアテークで開催された。

プログラムは特別講演が二編、「本四架橋に携わって」(財)海洋架橋・橋梁調査会 常務理事加島 聡氏、「橋のしごと」～一緒に橋を造ってみませんか～(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 本部 技術次長 森下 重和氏、両氏の講演のあと表彰式(作品講評)が行われた。

今年度の審査方法は東北6県の高等学校20校から応募のあった45作品の中から一次審査を通過した10作品について、来場者が投票しそこで得られた得点と一次審査結果を加算して、受賞作品を決定する。その結果、最優秀賞には宮城県上沼高等学校作品の「錦楼橋」が選ばれた。



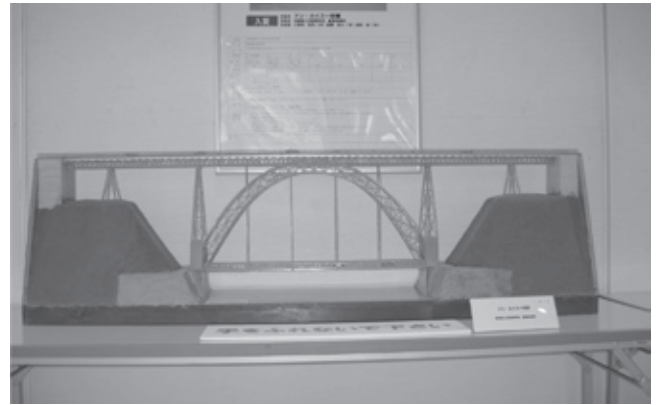
【宮城県上沼高等学校作品の「錦楼橋」】

受賞理由はリベットによる部材接合、細部の表現が精巧にできていることと、プレートガーターが丁寧に仕上がっている。

優秀賞には宮城県上沼高等学校作品の「ドン・ルイス一世橋」及び宮城県迫桜高等学校作品の「中国の風雨橋」の2作品が選ばれた。

受賞理由は「ドン・ルイス一世橋」上部工・下部工共づくりが繊細で精巧である。

「中国の風雨橋」はトン族が架橋したものであり、図面もなく画像だけで精巧に仕上げられており、河川の要素も取り入れている。



【宮城県上沼高等学校作品の「ドン・ルイス一世橋」】



【宮城県迫桜高等学校作品の「中国の風雨橋」】

その他、審査員特別賞に宮城県古川工業高等学校作品の「猿橋」、山形県寒河江高等学校作品の「三連の鷹橋」の2作品が選ばれた。努力賞に5作品が選ばれた。



【授賞式の様子】

[支部だより]

10月2日(土)

建コン芋煮会

場 所／泉高原スプリングバレー

主 催 厚生委員会

参加者35名

10月5日(火)

技術委員会（構造部会）

場 所／支部会議室

議 題／(1)現場見学会について

(2)講習会、講師派遣について他

10月6日(水)

福島県との意見交換会

場 所／福島県会議室

福島県 沼田土木部次長他 6名

協 会 遠藤支部長他 16名

議 題／建コンからの提案議題

(1)地方における公共事業費の確保に関する要望と提案

(2)入札・契約制度に関する要望と提案

(3)品質の確保と照査に関する要望と提案

(4)建設コンサルタントの新たな役割に関する要望と提案

(5)業務の円滑な遂行に関する要望と提案

(6)発注状況と今後の見通しに関する質問

10月7日(木)

河川・環境部会「現場見学会」

梨郷築堤－長井ダム－永移築かわまちづくり－

朝日フットパス－大江地区

主 催 技術委員会（河川・環境部会） 参加者27名

10月7日(木)～8日(金)

東北地方整備局「第3回構造物基礎技術講習会」

へ講師派遣

講 師／荒関 正二（株オリエンタルC）

今泉 敏郎（新構造技術株）

向田 昇（大日本C株）

石橋 努（株復建技術C）

10月12日(火)～13日(水)

福島県農林水産部「重要構造物（擁壁工）の

設計・照査及び工事監理のチェックポイント」

「擁壁工の設計演習」へ講師派遣

講 師／向江 正夫（株東京建設C）

10月14日(木)

東北地方整備局「橋梁の補修設計」へ講師派遣

講 師／石橋 努（株復建技術C）

10月14日(木)

秋田県との意見交換会

場 所／ルポールみづほ

秋田県 山下県土整備技監他 6名

協 会 遠藤支部長他 17名

議 題／建コンからの提案議題

(1)地方における公共事業費の確保に関する要望と提案

(2)入札・契約制度に関する要望と提案

(3)品質の確保と照査に関する要望と提案

(4)建設コンサルタントの新たな役割に関する要望と提案

(5)業務の円滑な遂行に関する要望と提案

(6)発注状況と今後の見通しに関する質問

10月18日(月)

RCCM登録更新講習会

場 所／ホテルメトロポリタン仙台

主 催 本 部

10月18日(月)

東北地方整備局「土質調査と構造物設計」へ講師派遣

講 師／今泉 敏郎（新構造技術株）

10月18日(月)

仙台市建設局道路部「第3回道路事業技術研修会」

へ講師派遣

講 師／石橋 努（株復建技術C）

10月20日(水)

品質セミナー「エラー防止」

場 所／ハーネル仙台

主 催 本 部

受講者72名

10月21日(木)

福島県土木部専門研修（橋梁）へ講師派遣

講師／今泉 敏郎（新構造技術(株)）
小泉 茂樹（(株)長大）
青柳 健二（アジア航測(株)）

10月26日(火)～29日(金)

岩手県土木技術専門研修（一般構造物）へ講師派遣

講師／三上 登志男（(株)復建技術C）
小原 茂樹（(株)復建技術C）
菅原 俊次（東京C(株)）
中居 英樹（応用地質(株)）

10月27日(水)

仙台市との意見交換会

場所／仙台市役所上杉分庁舎
仙台市 小島都市整備局次長他 6名
協会 遠藤支部長他 12名
議題／建コンからの提案議題

- (1)地方における公共事業費の確保に関する要望と提案
- (2)入札・契約制度に関する要望と提案
- (3)品質の確保と照査に関する要望と提案
- (4)建設コンサルタントの新たな役割に関する要望と提案
- (5)業務の円滑な遂行に関する要望と提案
- (6)発注状況と今後の見通しに関する質問

10月27日(水)

東北地方整備局青森河川国道事務所「函渠の設計について」へ講師派遣

講師／千田 仁志（(株)復建技術C）

10月28日(木)

宮城県市町村職員中堅者技術研修会（構造部門）へ講師派遣

講師／功刀 和也（日本工営(株)）
向田 昇（大日本C(株)）

11月1日(月)

青森県との意見交換会

場所／ホテルアラスカ
青森県 大澤県土整備部理事他 11名
協会 遠藤支部長他 12名
議題／建コンからの提案議題

- (1)地方における公共事業費の確保に関する要望と提案
- (2)入札・契約制度に関する要望と提案
- (3)品質の確保と照査に関する要望と提案
- (4)建設コンサルタントの新たな役割に関する要望と提案
- (5)業務の円滑な遂行に関する要望と提案
- (6)発注状況と今後の見通しに関する質問

11月2日(火)

技術委員会（構造部会）

場所／支部会議室
議題／(1)現場見学会について
(2)講習会、講師派遣について他

11月10日(水)

講演会「高齢化社会に対応した社会資本整備のあり方」

場所／ホテル法華クラブ仙台
講演／「東北圏広域地方計画における東北の可能性」
国土交通省東北地方整備局 企画部
環境調整官 原田 吉信 氏
「仙台都市圏での大規模宅地開発の展開
－今後のコンパクトシティの可能性－
東北学院大学 経済学部
教授 千葉 昭彦 氏
「福祉の交通・まちづくりからみた
これからの社会資本整備」
秋田大学 大学院工学資源学研究所
教授 木村 一裕 氏

主催 (社)建設コンサルタンツ協会東北支部
後援 国土交通省東北地方整備局、河北新報社
日刊建設工業新聞社、日刊建設産業新聞社
日刊建設通信新聞社、建設新聞社
協賛 (社)土木学会東北支部、(社)日本技術士会
東北支部

出席者200名

11月11日(木)

情報セキュリティ講習会

場所／パレス宮城野
主催 本部 受講者30名

11月12日(金)

宮城県土木部研修「ストックマネジメント概論2」へ講師派遣

講師／大石 健二（パシフィックC(株)）

支部だより

11月14日(日)

平成22年度 RCCM 資格試験

場 所／東北文化学園専門学校

10:00～17:15

主 催 (社)建設コンサルタンツ協会
(受験者数 仙台会場 800名)

11月16日(火)

平成22年度 CAD セミナー

場 所／パレス宮城野

主 催 本部情報部会 CALS/EC 委員会・CAD 専門委員会
東北支部 情報化委員会 受講者30名

11月16日(火)

宮城県土木部研修「小規模擁壁実務演習」へ講師派遣

講 師／青柳 健二 (アジア航測(株))

11月17日(水)

構造部会「現場見学会」

仙台市地下鉄東西線【広瀬川橋梁外工区】

主 催 技術委員会 (構造部会) 参加者27名

11月18日(木)

宮城県との意見交換会

場 所／KKR ホテル仙台

宮城県 伊藤土木部次長他 4名

協 会 遠藤支部長他 14名

議 題／建コンからの提案議題

- (1)地方における公共事業費の確保に関する要望と提案
- (2)入札・契約制度に関する要望と提案
- (3)品質の確保と照査に関する要望と提案
- (4)建設コンサルタントの新たな役割に関する要望と提案
- (5)業務の円滑な遂行に関する要望と提案
- (6)発注状況と今後の見通しに関する質問

11月24日(水)～25日(木)

宮城県土木部研修「第4回土工基礎技術講習会」

へ講師派遣

講 師／三上 登志男 (株)復建技術(C)

小原 茂樹 (株)復建技術(C)

11月25日(木)

道路技術講習会

場 所／ハーネル仙台

主 催 技術委員会 (道路部会) 受講者53名

11月25日(木)～26日(金)

岩手県土木技術専門研修「橋梁補修・補強」へ講師派遣

講 師／櫻井 寿樹 (中央C(株))

佐藤 宗孝 (セントラルC(株))

11月26日(金)

土研新技術ショーケース2010 in 仙台

場 所／フォレスト仙台

主 催／独立行政法人土木研究所

共 催／(社)建設コンサルタンツ協会東北支部

11月29日(月)

構造部会技術講習会

場 所／ハーネル仙台

主 催 技術委員会 (構造部会) 受講者41名

11月29日(月)～12月9日(木)

技術士模擬面接

場 所／支部会議室

主 催 技術委員会 受講者44名

11月30日(火)

独占禁止法研修会

場 所／建設産業会館

講 師／(財)建設業適正取引推進機構

相談指導部 次長 庄司 芳次 氏

(社)建設コンサルタンツ協会東北支部、(社)宮城県測量設計業協会、(社)日本補償コンサルタント協会東北支部、(社)全国上下水道コンサルタント協会東北支部、東北地質調査業協会、東北測量設計業協会、6団体の共催
出席者145名 (建コン会員50名)

12月2日(木)

情報化委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1)講習会について

(2)来年度の事業計画について

(3)各班の活動報告

12月3日(金)

河川講習会

場 所 / TKP 仙台カンファレンスセンター

主 催 技術委員会 (河川部会) 受講者44名

12月3日(金)

広報委員会

場 所 / 支部会議室

議 題 / (1)JCCA TOHOKU No.43の企画について

12月8日(水)

総務委員会

場 所 / 支部会議室

議 題 / (1)平成22年度意見交換会の実施状況について
(2)整備局との意見交換会議題(案)について
(3)そ の 他

12月9日(木)

東北地方整備局青森河川国道事務所「地盤調査
と軟弱地盤解析について」へ講師派遣

講 師 / 小原 茂樹 (株)復建技術C)

12月10日(金)

河川構造物専門委員会セミナー

場 所 / パレス宮城野

主 催 本 部 受講者45名

12月10日(金)

仙台市建設局道路部「第4回道路事業技術研修会」

へ講師派遣

講 師 / 菅原 敬一 (株)復建技術C)

12月14日(火)

平成22年度 CommomMP 勉強会

場 所 / ルナール仙台9階会議室

主 催 技術委員会 (河川部会) 受講者15名

12月16日(木)

技術委員会 (部会長会議)

場 所 / 支部会議室

議 題 / (1)技術担当者会議について他

12月16日(木)

幹事会

場 所 / 支部会議室

議 題 / (1)平成22年度整備局との意見交換会について

(2)平成22年度東北6県及び仙台市との意見交換会議事録概要について

(3)平成23年度に向けてのスケジュールについて

12月16日(木)

講演会「建設コンサルタントを巡る最近の動向と

今後の対応」

場 所 / パレス宮城野

講 師 本部 藤本副会長 参加者70名

12月16日(木)

支部忘年会

場 所 / パレス宮城野

主 催 厚生委員会 出席者90名

12月17日(金)

東北地方整備局郡山国道事務所「小構造物の設計

とチェックポイント」へ講師派遣

講 師 / 石橋 努 (株)復建技術C)

1月17日(月)

東北地方整備局との意見交換会

場 所 / 整備局会議室

整備局 川嶋企画部長他 6名

協 会 遠藤支部長他 17名

整備局からの情報提供

- H23国交省予算の概要

- 最近の発注状況

- 東北圏広域地方計画

- 発注者支援業務等に係る発注の見通しの公表意見交換

- (1)品質確保に向けた取り組みについて

- (2)入札契約制度の改善に向けた取り組みについて

- (3)発注状況と今後の見通しについて

1月25日(火)

幹事会

場 所 / 支部会議室

議 題 / (1)平成23年度事業計画及び予算(案)について

(2)平成23年度本部・支部意見交換会について

2月2日(水)

広報委員会

場 所 / 支部会議室

議 題 / (1)平成23年度講演会について

(2)その他

支部だより

2月10日(木)

技術担当者会議

場 所／ハーネル仙台

主 催 技術委員会 受講者49名

2月10日(木)

厚生委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1)平成23年度事業計画について
(2)その他

2月18日(金)

山形県県土整備部「公共調達スキルアッププログラム」 審査者研修（MS検証研修）へ講師派遣

講 師／向田 昇（大日本C株）
伊藤 哲也（セントラルC株）

2月22日(火)

地域建設コンサルタント問題検討委員会

場 所／ホテル法華クラブ仙台

議 題／(1)平成22年度整備局、各県意見交換会について
(2)平成22年度本部・支部意見交換会について
(3)その他

2月22日(火)

経営者委員会

場 所／ホテル法華クラブ仙台

議 題／(1)平成22年度本部・支部意見交換会について
(2)その他

2月24日(木)

宮城県大河原土木事務所技術講習会「設計成果品の エラーとチェックポイントについて」「土質基礎講座」 へ講師派遣

講 師／渡辺 仁（株ドーコン）
小原 茂樹（株復建技術C）

3月1日(火)

建コン本部と支部との意見交換会

場 所／パレス宮城野

議 題／1. 平成22年度「要望と提案」「白書(案)」
について
2. 支部提案
(1)平成22年度「要望と提案」及び「白書」(案)
に対する意見について
(2)「要望と提案」に対する追加提案

3月3日(水)

広報委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1)JCCA TOHOKU No.43について
(2)平成23年度講演会について

[会員の動向]

◆ 会員の異動（次の方が就任されました）

平成22年10月22日 新日本技研(株)
 仙台支店長 谷中 幸和
 平成22年10月22日 大和工営(株)
 代表取締役 小野 富雄

◆ 名称変更

平成22年10月1日 (株)地圏総合コンサルタント 仙台支店
 (旧 住鉱コンサルタント(株) 仙台支店)

◆ 住所変更

平成22年11月15日 (株)長大 仙台支社
 〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26 (小田急仙台東口ビル 4F)
 TEL 022-781-8628 (変更)
 FAX 022-257-7212 (変更)

社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部会員名簿

会員4月1日現在 72社

会社名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
朝日航洋(株)	東北空情支社	〒981-3133 仙台市泉区泉中央1-40-2	022-771-2382
アジア航測(株)	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-4-28	022-216-3553
(株)東コンサルタント	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字正内町101	0246-23-8424
いであ(株)	東北支店	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-1-11	022-263-6744
(株)ウヌマ地域総研	本社	〒010-0965 秋田県秋田市八橋新川向13-19	018-863-5809
エイト技術(株)	本社	〒031-0072 青森県八戸市城下2-9-10	0178-47-2121
(株)エイト日本技術開発	東北支社	〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161	022-712-3555
応用地質(株)	東北支社	〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町3-21-2	022-237-0471
(株)オオバ	東北支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-4	022-261-8861
(株)オリエンタルコンサルタンツ	東北支店	〒984-0065 仙台市若林区土樋104	022-215-5522
開発虎ノ門コンサルタント(株)	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-2-1	022-723-1672
川崎地質(株)	北日本支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-4-16	022-792-6330
(株)菊池技研コンサルタント	本社	〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字石橋前6-8	0192-27-0835
基礎地盤コンサルタンツ(株)	東北支社	〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2-9-23	022-291-4191
(株)キタコン	本社	〒036-8051 青森県弘前市大字宮川1-1-1	0172-34-1758
(株)キタツク	仙台事務所	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-1-37	022-265-1051
(株)橋梁コンサルタント	東北事務所	〒960-8043 福島県福島市中町9-9	024-524-2381
(株)協和コンサルタンツ	東北支社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-14	022-266-6073
(株)近代設計	東北支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-12-12	022-256-3660
(株)クレアリア	東北支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町9-7	022-726-5225
(株)建設環境研究所	仙台支店	〒980-0021 仙台市青葉区中央4-7-17	022-265-0666
(株)建設技術研究所	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-15-1	022-261-6861
(株)郡山測量設計社	本社	〒963-8041 福島県郡山市富田町字十文字54-3	024-952-5200
(株)国際開発コンサルタンツ	仙台支店	〒980-0011 仙台市青葉区一番町1-5-25	022-225-6201
国際航業(株)	東北支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-45	022-299-2801
(株)コサカ技研	本社	〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字上碓田56-2	0178-27-3444
(株)コンテック東日本	本社	〒030-0122 青森県青森市大字野尻今田91-3	017-738-9346
三協コンサルタント(株)	本社	〒994-0062 山形県天童市長岡北1-2-1	023-655-5000
サンコーコンサルタント(株)	東北支店	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-38	022-273-4448
(株)三和技術コンサルタント	本社	〒995-0015 山形県村山市楯岡二日町7-21	0237-55-3535
柴田工事調査(株)	本社	〒012-0801 秋田県湯沢市岩崎字南五条61-1	0183-73-7171
(株)庄内測量設計舎	本社	〒999-7781 山形県東田川郡庄内町余目字三人谷地69-9	0234-43-2459
新構造技術(株)	東北支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉5-3-47	022-225-5881
新日本技研(株)	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-212-4870
新和設計(株)	本社	〒992-0021 山形県米沢市大字花沢880	0238-22-1170
ジェイアール東日本コンサルタンツ(株)	東北支店	〒983-0853 仙台市宮城野区東六番丁31-2	022-211-0872

会 社 名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
セントラルコンサルタント(株)	東北支社	〒980-0822 仙台市青葉区立町27-21	022-264-1923
(株) 創研コンサルタント	本社	〒010-0951 秋田県秋田市山王1-9-22	018-863-7121
創和技術(株)	本社	〒010-0951 秋田県秋田市山王6-20-7	018-863-4545
大成基礎設計(株)	東北支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺3-13-10	022-295-5768
(株) 田村測量設計事務所	本社	〒990-0023 山形県山形市松波4-12-3	023-642-6644
(株) 大東設計コンサルタント	仙台支店	〒983-0038 仙台市宮城野区新田2-17-38	022-239-6441
大日本コンサルタント(株)	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35	022-261-0404
(株) ダイヤコンサルタント	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-4-1	022-263-5121
大和工営(株)	本社	〒996-0053 山形県新庄市大字福田字福田山711-43	0233-22-2422
(株) 地圏総合コンサルタント	仙台支店	〒980-0803 仙台市青葉区国分町1-2-1	022-261-6466
中央開発(株)	東北支店	〒984-0042 仙台市若林区大和町3-2-34	022-235-4374
中央コンサルタンツ(株)	仙台事務所	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-18-21	022-722-2545
(株) 長大	仙台支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26	022-781-8628
(株) 千代田コンサルタント	仙台支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-3-8	022-214-6261
(株) 帝国コンサルタント	仙台支店	〒989-3128 仙台市青葉区愛子中央5-2-15	022-391-0870
(株) テクノ長谷	本社	〒980-0824 仙台市青葉区支倉2-10	022-222-6457
(株) 東京建設コンサルタント	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-222-8887
東京コンサルタンツ(株)	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町3-36-18	022-265-3891
(株) 東建工営	本社	〒982-0011 仙台市太白区長町3-8-7	022-246-9811
(株) ドーコン	東北支店	〒980-0803 仙台市青葉区国分町1-6-18	022-225-2860
東邦技術(株)	本社	〒014-0041 秋田県大仙市大曲丸子町2-13	0187-62-3511
(株) 東北開発コンサルタント	本社	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-15-33	022-225-5661
日栄地質測量設計(株)	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字作町1-3-2	0246-21-3111
日本工営(株)	仙台支店	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-1-11	022-227-3525
日本振興(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-5	022-291-3810
(株) ニュージェック	東北支店	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2	022-301-7611
パシフィックコンサルタンツ(株)	東北支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-4-5	022-296-8511
(株) パスコ	東北事業部	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡2-2-11	022-299-9511
(株) 福山コンサルタント	東北事業部	〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-17	022-262-0118
(株) 双葉建設コンサルタント	本社	〒996-0002 山形県新庄市金沢字谷地田1399番11	0233-22-0891
(株) 復建エンジニアリング	東北支社	〒980-0801 仙台市青葉区木町通1-6-34	022-267-2765
(株) 復建技術コンサルタント	本社	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25	022-262-1234
復建調査設計(株)	仙台事務所	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-3-9	022-723-5830
三井共同建設コンサルタント(株)	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央4-10-3	022-225-0489
八千代エンジニアリング(株)	東北支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町1-23	022-261-8344
(株) 横浜コンサルティングセンター	仙台支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-18	022-262-1493

編集後記

この冬、東北各地で数年来という大雪に見舞われたが、季節は三寒四温を繰り返して春を迎えようとしている。さて編集後記に何を書こうかと悩みながら思いつくまま気になる話を。

中東情勢。エジプトの民主化運動に始まり、リビアでは反政府デモの拡大に徹底した武力弾圧を強める最高指揮者。民主化運動は過激な内乱に発展した。その結果、中東・北アフリカ情勢の緊迫化により原油価格急騰は避けて通れない状態である。我々の生活は車のガソリンをはじめ、衣食住に関連するものはほとんどが石油製品で、原油は生活に無くてはならないものになっている。原油価格の高騰は日本だけでなく世界経済に影響するのは必至である。

一方国内情勢。民主党政権は1年半が過ぎた。マニフェストに「コンクリートから人へ」政策は、公共事業に注いでいた予算や事業費を子育て支援など「人育て」の予算に回そうというもの。八ツ場ダムで代表される通り、公共事業費の削減は我々業界において非常なる試練を強いられている。一方、300議席を超える絶対安定多数を獲得し政権交代を実現したものの、「政治とカネ」、「普天間基地」で首相がかわり、そして「在日外国人による政治献金問題」は今後どのような影響を与えるのか。不安定政権は国民生活を脅かすだけでなく、国力の低下を招きかねない。

暗い話ばかりで43号の編集後記を締めるわけには行かない。巻頭言でも紹介したが、我々が主催する平成23年度講演会「今こそ必要な社会資本整備」と題し、藤井聡先生と神山眞先生の講演を開催します。藤井先生は東日本大震災から日本の復興をはかり、より災害に強くするための日本復興計画を提案されています。この機会に是非参加してはどうでしょうか。

日 時：平成23年7月7日(木) 13:30～17:00

会 場：仙台国際センター大会議室

参加費：無料

東日本大震災において被害を受けられた皆様に心からお見舞い申し上げます。

我々建設コンサルタンツ協会東北支部は国土交通省や自治体と連携を図り、全力を挙げ被災地域の復旧に取り組んでおります。

(2011年4月 荒木 孝広 記)

CCA TOHOKU Vol.43

発 行	社団法人 建設コンサルタンツ協会東北支部 〒980-0802 仙台市青葉区二日町16-20 二日町ホームプラザビル TEL 022-263-6820
編 集	広報委員長 松 川 秀 敏 副委員長 菊 池 透 広報委員 大 友 正 樹 広報委員 荒 木 孝 広 〃 梶 谷 真 〃 片 寄 白 王 〃 佐 藤 雅 樹 〃 高 野 浩 二 〃 萩 野 誠 〃 田 沢 重 久
事務局	諸 澤 宗 男・小 川 みゆき
印 刷	ハリウ コミュニケーションズ株式会社 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2番12号 TEL 022-288-5011



.....明日への風、東北から.....

ロゴのデザインについて

三本の流れは、東北から発進する新しい風と〔文化〕を象徴したものであり、その中の白い三角は東北独自の〔風土〕と〔歴史〕をイメージしたものである。